

～ 真理の道・誠の道・平和の道～

東 雲



平戸市立度島小中学校

学校だより No.34

令和8年3月16日(月)

文責：校長 園田栄作

思いが伝わり合った感動の卒業式

～ 思いをつなぐ「送辞」「答辞」！～

『送辞』

校庭の桜のつぼみも膨らみ始め、目の前に広がる度島の海は、今日も穏やかな表情を見せて、うららかな春の訪れを感じるといふ日となりました。度島中学校を卒業される二名の先輩方、ご卒業、誠におめでとうございませう。

この壇上に立った今、先輩方とともに過ごした日々の思い出が、昨日のことのようによみがえってきます。「度島の未来を創る、一人一躍、個性を活かして」のスローガンのもと、全校生徒十三名で、様々な行事や日々の生活に取り組んできました。その先頭には、いつも先輩方の優しくたくましい姿がありました。

小中合同で行った運動会。これまでとは異なる形での応援合戦など、全校生徒をまとめるにあたっては、苦勞されることも少なくなかったはずですが、しかし、どんな時もリーダーとして後輩への思いやりを忘れず、一生懸命に導いてくださる先輩方の姿から、私たちは多くのことを学ぶことができました。

「県大会出場」という目標に向かって努力を重ねた部活動。平戸市中総体では、個々の力を十分に発揮し、素晴らしい結果を残されました。日々の地道な積み重ねが、大きな成果につながるといふことを、先輩方は背中中で教えてくださいました。

少しでも良いものを作り上げようと工夫を凝らした学習発表会。総合的な学習の時間で深めた学びを、写真や言葉でわかりやすく表現する姿は、今でも私たちの目に鮮明に焼き付いています。

私たちは、幼いころからこの島でもにも過ぎず、ずっと先輩方の背中を追いかけてきました。先輩方はいつも優しく、そこにいるだけで安心感を与えてくれる存在でした。昼休みや放課後、部活動の帰り道……。先輩方と過ごした何気ない一日一日のすべてが、今、とても愛おしく、かけがえのないものに感じられます。

そんな先輩方に甘えて、時には友達のように接してしまふこともありました。お別れを間近に控えた今、心にあるのは深い「尊敬」と「感謝」の気持ちです。今まで、本当にありがとうございました。

今、先輩方はこの学び舎を去り、それぞれが選んだ新しい道へと踏み出そうとされています。それから先、時には高い壁に突き当たったり、正解のない問いに悩んだりすることもあるかもしれません。しかし、度島で、仲間と切磋琢磨し、どんな荒波も必ず乗り越えていけると確信しています。私たちが在校生は、いつまでも先輩方のことを応援しています。

名残は尽きませんが、卒業される二名の先輩方の前途が明るく、希望に満ち溢れるものとなることを願ひ、送辞といたします。

令和八年三月十三日

在校生代表

〇〇〇〇



『答辞』

厳しい冬も終わり、暖かな日差しとそよ風に、春の訪れを感じる季節となりました。本日、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙行してください誠にありがとうございます。お忙しい中、ご列席賜りました来賓並びに地域の皆様、今日まで私たちを導いてくださった先生方、ともに歩んできた在校生の皆さん、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

三年前、この度島中学校に入学した日、新しい制服に身を包んだ私たちの胸は、憧れと期待でいっぱいでした。転機となったのは、二年生の時です。「自分たちがこの度島中学校を引き継いでいかなければならない」という当事者意識が芽生えたとき、それまでの「誰かがやってくれるだろう」という甘えが消え、覚悟が決まりました。挑戦の連続だった三年間、その一つ一つの情景が、この壇上に立った今、昨日のこのように鮮やかに蘇ってきます。

「度島の未来を創る」と思いを形に、一人一躍、個性を活かして、「このスローガンを掲げた生徒会活動では、少人数であることを強みに変える方法を模索しました。ポータルサイトを活用した情報共有や学年の枠を超えた全校対話の場を設けるなど、主体的な学校づくりを推進しました。有意義な意見交換ができたのは、在校生の皆さんが自分事として協力してくれたおかげです。次は皆さんの番です。この度島中学校を、さらに輝く学校にしていってください。部活動では、勝つための戦略以上に「チームをどうまとめるか」に悩み、行動し続けました。もともと人をリードする性格ではなかった私にとって、キャプテンという大役は不安でしかありませんでした。しかし、根気強く指導してくださった先生方、そして私を「○○○○」と慕い、全力でついてきてくれた後輩たちの存在が、何よりの支えてくれた。競い合い、高め合えた日々があったからこそ、勝利にこだわる強さを得ることができました。中総体で受けたあの熱い声援は、今も私の耳に残っています。

小中学校合同の運動会では、四十名全員で島全体を盛り上げようと「全校応援」に全力を尽くしました。九年間の締めくくりとして踊ったソーラン節では、二年生がリーダーシップを発揮し、全員で「ハカ」を取り入れた迫力ある演舞を披露しました。島が一つになったあの瞬間、そして二〇二五年度を共に駆け抜けた皆さんとの絆は、一生の宝物です。

九月から取り組んだ駅伝大会。一年生の頃は走り方もわからず、ただ先輩の背中を追うだけで精一杯でした。しかし、苦しさを分かち合える仲間の存在が、私を成長させてくれました。体力だけでなく、最後まで走りぬく忍耐力を養い、誰かに寄り添い走れる自分になれたと感じています。全員でベストを尽くし、一本の襷を繋ぎきったゴール後の喜びは、決して忘れることはありません。

一番近くで支えてくれた保護者の皆様。進路に悩んだとき、「あなたが頑張れる道へ」と背中を押してくれましたね。時には反抗的な態度をとり、衝突することもありました。いつも温かく、時には厳しく見守ってくれたことに感謝しています。普段は照れくさくて言えませんが、この場を借りて伝えさせてください。お父さん、お母さん、いままで本当にありがとうございました。高校でもさらに努力し、成長した姿を見せることができよう頑張ります。

校長先生をはじめとする先生方。一時間一時間の授業は、私たちに世界を知る大切な学びの場でした。一人ひとりに寄り添い、丁寧に指導いただいたことに感謝いたします。部活動においても、球技が苦手で諦めそうになる私以上に、情熱をもって向き合ってくださったおかげで、今の私があります。

「慣れ親しんだ場所から抜け出す勇氣を持ては、あなたは成し遂げることができると。たとえ、少し恥をかいたって、それがどうしたっていうのさ。」これは、エミー賞を受賞したオーウェン・クーパーさんの言葉です。

私にとって、度島中学校は幼い頃からの慣れ親しんだ場所でしたが、生徒会長やキャプテンという挑戦は、まさにその安らぎから一歩踏み出す経験でした。この三年間で得た勇氣を胸に、次なるステージへ進みます。

今日、私たち卒業生は新たな人生の節目を迎えます。未知の世界への不安もありますが、この度島中学校で学んだこと。そして、最高の仲間との思い出を糧に、力強く歩んでいきます。最後になりますが、皆様のご健康とご多幸、そして母校・度島中学校の発展を祈念し、答辞といたします。

令和八年三月十三日

卒業生代表 ○ ○ ○ ○

